



やまもとりょうすけ
山本亮介 議員
YAMAMOTO Ryosuke

Q. ヒコーキ聖地化の目的は

A. 地域活力の向上につなげる

Q 第5次総合計画で示されているヒコーキの聖地化とは何か。また、その目的は何か。

A 産業建設部長

町は名古屋空港とともに発展してきた。空港周辺には民間航空機の最終組立工場が立地し、古くは戦後初の国産旅客機YS-11が開発製造され、最近では国産初のジェット旅客機、三菱スペースジェットが開発が進められている。

また、名古屋空港をはじめ、あいち航空ミュージアム、MRJミュージアム、航空館boonなど、産業観光集客施設も立地している。

これら航空を中心とした産業観光資源や航空関連の企業・事業所などの集積を生かし、ヒコーキのまちをテーマにした産業観光を推進することが、ヒコーキの聖地化である。また、その目的は、継続的にぎわいの創出と地域活力の向上につなげることである。

Q ヒコーキの聖地化を目指すうえで、町として取り込む課題は何か。

A 産業建設部長

豊山町の強みである航空を観光のテーマとして、他の地域にはないオリジナル性を前面に打ち出し、差別化を図り、より多くの観光集客につなげていくことが課題である。

Q ヒコーキの聖地化を進めていくうえで、神明公園・航空館boonはどのような役割を担っているのか。

A 産業建設部長

町に立地する産業観光資源としてのコンテンツになりうるものと考えている。



▲ヒコーキの聖地化を目指して

Q 町民協議会議で神明公園・航空館boonに対する意見が、町民から多く出されている。その意見について、どのように受け止めているのか。

A 産業建設部長

総合計画策定のための町民協議会議では、神明公園の「良いところ」「悪いところ」「良いところを伸ばし、悪いところを改善する方法」について意見をいただいた。

「駐車場、プレイヤンプ場、遊具など、公園施設を充実してほしい」といった内容が多く見受けられた。

これらのご意見を真摯に受け止め、できること、できないことについて、慎重に検討を行っていきたくと考えている。

Q 第5次総合計画では「Park-PF」(*)の活用検討で、民間活力の活用可能性も含めて有効活用策を図ると「明記している。これまで通り、町で管理・運営をし、有効活用については難しいのか。

A 産業建設部長
神明公園・航空館boonの管理運営は、住民の憩いの場として適正に維持管理していくことが必要だと考えている。

今後、ヒコーキの聖地化を目指すうえで、魅力ある神明公園・航空館boonにしたいための管理・運営の手法のひとつとして研究したいと考えている。

※Park-PFとは「公園設置管理制度」である。飲食店、売店などの公園利用者の利便性が高くなるような公募対象公園施設の設置と、その施設から生じる収益を活用して、園路、広場などの整備・改修などを一体的に行うものである。